

マッチングリスト作成前後の対比

項目	作成前（現状と課題）	作成後（めざす姿）
潜在的人材の状態	得意分野や意欲があっても、活動の場がなく「埋もれている」状態です。	自身の可能性が発掘され、「教える」「支える」人材として可視化されます。
学習団体の悩み	「新しい仲間がいない」「活動が固定化している」といった課題を抱えています。	リストを通じて新たな人材や仲間と出会い、活動の幅が広がります。
互いのつながり	点在しており、誰がどこで何を学んでいるか、何をしたいのかが見えにくい状態です。	共通の目的を持つ人や団体がゆるやかにつながり、新しいことに挑戦する仕組みが生まれます。
市/市民プラザの役割	学習相談を受けつつも、具体的な人材情報の集約・提供が限定的です。	「生涯学習・地域づくりの拠点」として情報を一元化し、相談者へ最適な人・団体を繋ぎます。

変化のポイント

- **潜在的人材の「活躍」**：これまで自分の可能性に気づいていなかった人も、リストに登録されることで地域から頼られる存在へと変化します。
- **情報の「一元化」**：市民プラザや住民センターに設置される「登録依頼箱」などを通じて集められた情報が一つにまとまることで、誰もが必要な情報にたどり着けるようになります。
- **マッチングによる「地域活性化」**：相談者が市民プラザを介してリストを活用し、人材交流（マッチング）が行われることで、地域全体の学習機会が増加し、持続可能なコミュニティづくりに寄与します。

「生涯学習団体等マッチングリスト」でつながる！学びと活動の新しいカタチ

【導入前】情報が届かず、埋もれている現状	【導入後】リストが生み出す新たなチャレンジ
 スポーツ団体 文化サークル ボランティア会 生涯学習団体 バラバラに点在する情報 団体と人材がお互いの存在を知らず、繋がりが持てない状態です 埋もれている「潜在的人材」 特技や意欲があっても、きっかけがなく活躍の場が得られていません お互いを見つけられず困惑 情報を探す手段が限られ、学びの機会が広がらない課題があります	 市民プラザによる「情報の一元化」 拠点に情報を集約し、誰もが相談・照会できる仕組みを構築します  潜在的人材の発掘とマッチング リストを介して人材と団体が繋がり、新たな活躍の場が生まれます  笑顔で広がる新たなチャレンジ 対話と繋がりを通じて、こどもから大人までワクワク活動できる地域へ

NotebookLM

イメージ図では、左側に「情報がバラバラでつながりが見えない現状」、右側に「マッチングリストを通じて団体と人材が結びつき、市民プラザが橋渡し役として機能している姿」を対比させています。

マッチングリストが情報の「カルテ」として機能し、そこから生まれる新たな出会いが、丹波市の「学びの土壌」をさらに豊かにしていくプロセスを表現しています。